

税金に助けられ、支えられる私たち

栃木市立都賀中学校 2年 金子 葵

私は税金に助けられました。そして、今現在も支えられています。

その出来事の発端は、今年の四月のことでした。隣の家からの火災により、私の家が被害に遭ってしまいました。これからどうなってしまうのだろうという絶望的な気持ちでした。ですが、災害ボランティアの方々が住む場所を手配してくださったり、布団や緊急セットを用意してくださったりしました。災害ボランティアの方々がいなければ、私たち家族は今、生活できていません。本当に感謝しています。

その出来事から約三ヶ月が経ち、少しずつ生活が落ち着いてきました。引越をするにあたり、災害ボランティアの方々が用意してくださった、今住んでいる家の家賃を目にする機会がありました。すると、家賃の半分を市が負担してくれていることがわかりました。母にその理由を聞いたところ、その支援金の半分は私たちが支払っている税金で賄われていることを知りました。また、被災した時にお世話になった消防車の出動や、その後の手続きに必要な罹災証明書の発行なども、全て税金で行われているそうです。被災した時、消防車が来なかったら、私たちは助かっていなかったかもしれません。住む場所を用意してくださらなかったら、私たちは今こんなに不自由なく生活できていません。この出来事があるまで、なぜ税金を支払っているのか、それが何のために使われているのかさえ知りませんでした。ですが、このつらい体験のおかげで、税金の大切さを心の底から深く感じられることができました。

最近では、台風や土砂崩れなどの自然災害により、家を失ってしまった方々をニュースで見かけます。その中には、私たち家族のように税金に助けられた方が数多くいると思います。私は、被害に遭われた方々の絶望感や先が見えない不安な気持ちが痛いほどわかります。そんな時、税金による支援はとても大きく、生死を分けるほど重要な役割なのです。しかし、税金の納付率は約七割程度で、税金を支払っていない人が数多くいることを知りました。その数の多さにとても驚きました。私は将来、大人になって就職したら、私のような被害に遭われた方々のために、しっかり税金を納めようと思います。

税金は決して無駄ではありません。公共施設の整備やごみ収集などの公共サービスはもちろん、私たちが今使っている教科書など、私たちの生活を支え、守るために必要なのです。私もその一人でしたが、税金の使い道について知らない人は数多くいると思います。きちんと税金を支払ってくださっている方々に感謝の気持ちを忘れず、税金について国民全員が理解し、納税をする。それができれば、一人一人が幸せに暮らすことができ、よりよい社会になるのではないかと思います。